



ひろがれ
まわれ
一つ心に

MORIOKA
ROTARY CLUB WEEKLY

第21回例会(12月7日)
平成24年12月14日発行

クラブ事務所 岩手県盛岡市菜園1丁目10
川徳デパート内
例 会 場 同上 TEL(651)1111(代)
FAX(653)5622
例 会 日 毎週金曜日12時30分～

会 長 藤村 文昭
幹 事 佐藤 重昭
会 報 福田 荘介
クラブ直通電話 TEL(653)5682

奉仕を通じて平和を Peace Through Service..... RI会長 田中作次



ゲスト卓話

人を結ぶビール

(株)ベアレン醸造所 代表取締役社長
木村 剛 様

スピーカー紹介

木村さんは盛岡市ご出身。東北大学経済学部卒業後キリンビール、銀河高原ビールでの勤務を経て平成15年ベアレン醸造所営業開始。ドイツから移設した醸造設備を使ってヨーロッパの伝統的な製法でクラシックビールを造っている。直営レストランもあり、日頃、県産食材とのコラボや多彩なイベントなど繰り広げている。被災地の支援にも精力的に取り組まれるなどますます期待が大きい企業です。(阿部広会員)

1. 「地ビール」解禁

平成6年(1994年)に時の細川内閣により緊急経済対策の一環として酒税法の規制緩和が行われ、ビールの最低製造数量が2000KLから60KLへと引き下げられビール製造への新規参入が可能になりました。「地ビール」という言葉は日本酒の地酒にならって名づけられましたが、小規模なビール醸造業者という意味です。世界的にはクラフトビールと呼ばれ、また小規模醸造所のことをマイクロブリュワリーと呼んでいます。ちなみにアメリカでは1965年にフィリッツ・メイタグが経営危機に陥っていた醸造所を買収してアンカーブリュイング社を始めたのが最初とされます。この会社は現在では全米でも有数の規模を誇るビール会社となっていて、マイクロブリュワリーを立ち上げる人たちの憧れの存在となっています。

2. ブームとその終焉

地ビール解禁はマスコミでも大きく取り上げられ、地域おこし的手段として各地で参入が相次ぎました。当時地ビール業界の主体となったのは第三セクターや観光産業でしたが、物珍しさもあり大いににぎわいを見せ、全国に300社以上が林立することになりました。ところがこのブームは3年ほどで終わりを迎えます。その

要因としては価格の高さや品質の問題が挙げられますが、一番は観光土産としての位置づけからリピートに結びつく取り組みがされなかったのが大きな理由です。ここから廃業が相次ぎ地ビール業者は200社を下回ることになりました。しかし、かつてはビールといえばどれも同じようなものであったのが、他のお酒に負けないくらいバラエティーに富むものという認識は広まりました。

3. ベアレン醸造所立ち上げ

そんな地ビールへの逆風が吹く中、平成13年にベアレン醸造所を立ち上げることになりました。これまでの地ビールの失敗をふまえ、日常の食卓で飲み続けられるビールを目指しました。奇をてらった原料や味わいではなく、ドイツで伝統的に飲まれているビールの味わいを踏襲したビールづくりと初期投資を抑えてなるべく買い求めやすい価格にすることにしました。平成15年に醸造所が完成しビールづくりを始めましたが、販売先は地元を中心とし、地域の酒販売店やスーパー・百貨店に取り扱ってもらうことで、いつもの買い物の中で手に取ってもらえるよう心がけました。当初は知名度も少なく売り上げは小さなものでしたが、徐々にリピートしていただけるお客様も増えてきました。

4. クラフトビールのこれから

現在、首都圏をはじめとして日本各地でも再びクラフトビールへの関心が高まってきています。ここ数年はクラフトビール全体の製造量が増えている、クラフトビールを専門に扱う飲食店がちょっとした流行になっています。これは地ビールブーム以降も残った醸造業者が大手ビールとは違ったビールの味わいを地道に広め

ていったことが実を結びつつあるものと思われます。また世界的にもクラフトビールブームとも呼ぶべき動きがあり、元祖のアメリカはもとより、英国や北欧・イタリアなどでも小さな醸造所が次々とできています。経済のグローバル化への反動として、より地域に根差した作り手と飲み手の結びつきが感じられるようなビールはこれからも求められていくものだと思います。

例会報告

第21回例会
平成24年12月7日(金)

- 於 川徳 12時30分 開会点鐘
- ・司会 藤村文昭会長
 - ・ソング 奉仕の理想
 - ・国歌 君が代
 - ・ゲスト 木村 剛様 (ベアレン醸造所 社長)。
 - ・皆出席バッチ 樋山 桂君(2年)
 - ・入会祝 池野和夫、吉田育弘、村井良隆君。

- ・誕生祝 村井良隆、古山明廣、金子眞也君。
 - ・結婚祝 小川 惇、勝部民男、村井良隆君。
 - ・会長報告 藤村文昭会長
 - ・幹事報告 佐藤重昭幹事
- 終了後定例理事会

〔ニコニコBOX〕

◆佐藤重昭君…木村剛社長の卓話で地ビールの歴史が理解できて大変勉強になりました。ありがとうございます。ご実家の業所様にも当家の工事でお世話になってお

り、あわせてニコニコさせて頂きます。

◆近藤駿君…例会出席者26名、修正出席率73.58%と今期最悪の日と思われた11月16日ですが、その後山上さんの必死の調査と皆様のご協力により再々修正出席率が85.45%に上がりました。何よりも感激したのは酒造関係M会員がメーキャップカードをポストに入れておいて下さった事です。うれしさと皆様に感謝してニコニコします。

東京支部だより

今年の締めは27階でフレンチ ～東京支部忘年会

盛岡ロータリークラブ東京支部の忘年会が今年3日、ホテルメトロポリタン丸の内27階のTEN-QOO(てんくう)で9人の参加で行われました。このホテルは東京駅隣接で眼下にリニューアルなった駅舎がライトアップされ、各地に繋がる新幹線が見られる最高のロケーションです。南部利文さんが「一日も早い復興とより良い新しい年を祈念する。」と乾杯の音頭をとり、宴はスタートしました。澤田

社長から東京ステーションホテルは稼働率80%超でレストラン関連の「客単価」が上がっているとの報告がありました。

年の瀬選挙と岩手の情勢、仙台支部発足の報告、南部杯のゴルフ会、石井さんの「源氏物語」研究、など話題は多岐にわたりました。岩手の食材を巧みに使ったフレンチは格別で濃密なひと時となりました。来年は被災地を訪問したいとの声も多く、盛岡、仙台との交流をさらに深めることを確認し、お開きとなりました。盛岡の皆様のご活躍と仙台支部の躍進を念じつつ「良い年を」…。

(文責 小西隆昭)

出席報告 会員数 / 64 名 出席数 / 31 名 出席率 / 53.45% 前々回修正出席率 / 休会

- ・12月14日(金) 年次総会、会員卓話 高橋真裕君
「最近の金融経済動向」

プログラムの
お知らせ

- 21日(金) 年忘れ家族会
- 28日(金) 特別休会
- ・1月 4日(金) 特別休会
- 10日(木) 新年慶寿の会 (11日例会変更)

- 本号編集担当 / 福田 泰司
- 次号編集担当 / 佐藤 義正